



熱中症に対する IoTの使用について

最近では気温も高く、暑くなってきました。私は毎日往診で町中に出ているので、気温の変化に敏感に感じます。

ただ、実は患者さん宅では、室内のほつが外より暑くないため、体内の熱を貯め



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

いというところが往々にしやすくなっています。最近ではスマートフォンであります。そういう場合、患者さんには断りを入り、冷房を入れたり、換気をしたりして室温を調整します。

なぜ患者さん宅では室内のほつが暑いのか。その理由は、ご高齢にあります。ご高齢になると体温調節機能が低下してくるので、

「高齢者は暑くても汗をかきにくく、汗の量が少なからず、体内の熱を貯めやすくなります。また、

往診の際にはクーラーの使用や水分摂取の大切さをお話ししていますが、なかなかクーラーや扇風機をご利用されない方が多いです。

私の対策としては、ケアマネジャーやご家族にお話しをして、クーラーを利用することや水分摂取をしっかりとるよう徹底してもらっています。また、

最近ではスマートフォンでクーラー管理もできるようになってきているので、こういった情報通信機器の使用も取り入れれば、私（医師）がつきっきりでなくても、ご高齢の方の生活を支援できるのではと思っています。これからの在宅医療では、IoTがさまざまな活用されるはずです。有効なものは積極的に取り入れたいと思っています。

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日 : 土日 (祝日は診療)
 ■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック